三一九

蘭園宿直草

全

序

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宿直草巻一

目録

第一　すれすれ坊主の事
第二　七命ほろびぬんぐんの事
第三　武州あさまふじけ物あく夏
第四　清水の堂へくひきたる事
第五　あるもの僧天狗の難にあひ事
第六　てんぐたぶらかす事
第七　天狗いたる事
第八　天狗つかひ付たる事
第九　播州中山を魔所なる事
第十　中山みたる○ほ天狗なる事
第十一　足こし入乃をとみる事
第十二　弓法乃法とおがむ事

宿直物語卷一

第一　そもそもこれ　ものがたりあつめて　僧乃事

古人物語とりて　四位はぐらよ　あるといふくもと　行

とくあり　ふりにやかごろにきこえうし

そもそも　お業をひとつ　ふつ　ひとつ　智恵　色

僧乃僧　法師　しよ　あるあるよ　興業　多

のもの　ひとつく　住　乃僧　あり　ものよ　ものもつく　家

ものふ　ものもつ　ものもつ　ものもつ　ものもつ

ものもつ

まいりてとあづかへ侍るうこぐりかざり香炉
やうく時うにれぐ者も四更よるんくそう
ぼんをふの書をそひてぐんれぬまゝの月れ
ぐらんわんのあ〜をんぐもとんをとそ
たるとりふ〜庫裏より出一よあまられ光物
みくりぐそてをりふくろよまさめりう撫
ぶさふくふとあるとぐんひりう物たるといへば
野の野干とうへて塗乃かろうり入ぐ入
ぐりうまるこ日月のごとくぐ大とりてきうる
ふくぐだそとうへぐ色世乃鯉魚とくよりく
撫ぶのりれあけ七八尺まかてハぐくてく
ハとろうよりろひりうぐふしぐ首れ両行
乃一見の鯉とをよりて茶のうぐをひそうれのよ
ろひたりよつぐさありそぐをちんぐりう天物

もくやとおそうぐさあるいぐうへをれぐ
小山乃右衛とうひてぐうみうけぐうたき四更
ぐうりう多迦利くいづれあやーのをみりう
あれのぐをそのぐ侍と中よとりてあるさぐ
おどくうれども僧おぐぐく魔佛一如と観
ん観通じ給れぐんうくやをうんいづちと
をふさりぬぐくぐ物一四よ仏をひくを
こうれるもうるうぐせり暮物乃にとあ迦向の
ぐりうぐさみふのぐんをふ六人ぐうり侍をとんて
ふ一ぐのありひとるにぐてあやうさまりもの
やとをふ僧ぐうの侍乃いちくをようりぐさうそい
ひあぐ〜ちくも幸ばあづくうをのうかぐてその
ぐけをれいふふ〜侍ぐんとふ侍のいうく
ぐうみまよ報生乃中れいまーめとりうりか

くゝ無墨法師ハ
をやゝべきこと法師ハ
門をかゝぬひとつの門よりぬけ
ぬひとつの堂ふたつの間よりぬけ
ぬ蓮池ハ
ひとつあるべし蓮池の
蓮よりあしひとつあるべしこれ
ハ
これ
ハ
ぬけていそれ
ハ
うつくしき
ものなるべきなんどをらんて
ものよあるべしどもぬけ堂のひとつ
ひとつ
ぬけてそうしてそうして
池の極楽ぬけ水ハ
ありこれもぬけくようとつ
三方ともに
ぬけ
ぬけ
ぬけ
ぬけ

はたごやうつくれひとしいんだ。そ弁こもつくさん
ぐふいねねのもとこのそここそ樣の未しと沖う
はこんてゆれといきさて八四乃ひうきれハそれな
てこそいへとこ。こ書道とやとひよの未に
とりうへうりごれしりはるいよくこうんぐやし
うりとうんひべるうかこの傳法ありて妖怪
さまこげらまだおりく乃傳乃だうハこそあ
ふそう鈴ひしよるもしうこびこうんへ
こうこうよハあうどやまこ京都の野干ときて
てひどの型乃こうひとうまだハ後ハあしぬ
ごとんはくどうべこきとやぬしうこうこう四
ろうこどうと術とおがゆうまもあうべ四乃
樣乃ひうこそだばつうくもあやしうれ樣う
あしハこうくもとうり稲もこく賀となうと出世

乃ふふはうもまこうこたどひうかうハなどう
ふうどうもこりはとまもてをどうどんぐけ
まどこうあくだもうこそうあしう乃中のと
なうあうよ高乃せこのゆどりうあぶ
流乃家をうけてうどもうど息こうそひう
人めは思ハ神もうこうこう乃かのうけうもの高
第二七命ほうびしみんぐうみます
ひしあんぐやう傳やまうをあひしよどうり
もこうあ秋乃こうあうはこまうあうよこう
こうこう乃もいとうづくしう涼しこまう傳よいこう
ハへるあくどうあんいハ出こうどひいでこうし
よひうこう乃うづまこてとびこうこうてうまこうの食
こうしとうあうびんうまこうづはのひ樣んく
ふううびをこうハ傳みくあ傳乃こうよ水と

かくろ林もぶよのあるそうにもすくうとうむう
狩をそうろうびてさうにどこうりわうひきん
このうてもそよいうまて急ものまんよあにて
ほとうろへ海ようつがけもうろ狩へうてびう
とうりうれうふうるうさてく海老伏頭乃
こうりうるかふなめくづとうち沈黒にうろさ
きうくぶうへうりへのまふへうびけうりへも
ゆくあいうびあうんあるびつうるく思ひうれびほよ
つうて狩へのあるよゆうさ屋とううにうこで
ぶうけあううれうくゆうーゆりうによへ力まで
四面あれうろ業の戸れうよりうれ船らうう
濃うへうさあもうあうさふうりもよあうさひり
さ煙屋るあれどうまびうろうよりうーうさうれよ
ううぶもううくうよへうんあうさ伝ううとあう

まう。伝あうーうさうれあひとうのへて濃黒うど鉄
いううりうへふうはあで三吟うようれせーうそ
鉄をうやいうふ鉄うれあをてうそううあうそ
あうーもいうひうれで伝もうー伝りうよぶにと
やうーひうさうーくはやくあうもうちでうう屋
別ふあうーうわどうれうーくうそうーりのあり
掘沖の素えううーやうひうそうふううくう戸をひう
くうれうけうーうれでうるうさけーうふうるう
りううう男入ぬどうくうううとうわーくふうの掘沖
とうーううれ伝されでうそうとあうそうーくみと
ひうあうてううーうれうーどうりうーう死骸と入
るハ十うんーうをうくうーうーう伝ら屋うーぬと
ようろうーうさうーうのうへうーうへうーう女ういうくう
うあうーうーうへうーうーうーうーうーうーう

さいそひあびんのいこうれうよりせてはゆさらんと
いつぢうべしとく僧とあるをなくおこしがて
ごとうるひきこれとつぢうるつぢうまうれば
ちんちやくうれどいるといそぐちろもべきぐ記
よかくくれぢちくをぐにこれとうるぢ伴の男
ぐそよ紙くこもふ毛刀くおそろうさ出立
ゆりぐて山へゆきぐじぢさおばみそどのれハ
蛍ちくあるれ僧ふほくもろふぐんえこと
乃ふひろ僧ろろよりしやうあもうひべさ
あくこうべしぐ紙ぐくへば女だくうも家ものも事
あくうれんうれば一定これとも乃ろとこそ祓
きてぜんぐろ乃ぐんぐろ不といひぐ三月の
五へくぐこそて地乃祓をもろまうふぐりく
きれ他乃加護祈ぬの男絵ありてたをけ法へと

きせいてぐもふせんとこそれぐと思ひぐふぐ
法へ紙ぐくうねまうぐぐぐありてかれとのくもう
ゆへぐほどまでハりくう毎くく法へくろかく
やもちまんとうへじおとこやくくとやもちをべやう
面うあもぬうん毛下にくうさ法師くふいく
のくくもへ紙ほんとくく紙とも乃ろうくて
ぐほどふくさ宮入ぜいぐ代いぐてかりくそ
ぐくうべさ宮乃ちさくう僧居不乃ひぐぐのあり
ひべさひまあり穴でくくうハ命あくぐのくう
面くさハくかりと法毛怨歌後菩提んとぐ乃
うくうよくくひりくう毛刀くうなくとぐ文へのの
法とうぐくへくぐれおくと九首くうくおくぐて
山ぐくひ迷やハぐんとあり ひぐぐやくくれ女法
くくくうぐ過乃やくくよりひまーうぐいぐぐりの雑義

うあるうんあぐ四郎よいそんよふたりとくれ
乃地獄よりいちくまとりうそれぐ沙門を作ぬ
とくほうびよあづら女ばうはさぐあ乃ごく
刑よあかせたをそれうとうやむべくりとき
もいやーさもなれくい秋乃いろどのこそそ乃
たりの者ばとしてさそふ水よりをみぐー義
理よるれくえよのこうはいもはあーー
やさぐろものだねはさーたーもるぐふるとと
ぐあひろ者はいぐーいそ乃松をうんと泳
ぐーもさとふたそてあるもしくこそ伯れの
こまうどのひろあるとんなれとぐろうやひるふ
ふとあのとあるとふーたぐをさぐあうのーろと
乃ぐ秋はーはあまどおりつようれあるとぬよるふ
もの秋のつよなればいんともぐーさればこそ

れりさぐうんへ乃さよおろてとのひ女はーまよんん
みくぐーもまはいまーめ和漢ともよみ乃常
とおりく我人のーーなことにたろふこれ女
ふりるけぐこ乃ぐーをとるれおーぬーふ
ぬとうたーおるんそのまとろろもはーふ天
網恢くーつーいづこよあづるりんやおんぐはまる
ぜんこーれりはころべーめれまんよ七合はろ
びれりとのれよ入ものはとよまよいぐとぐと天
よえくいおふとろるーとひとるのふろ
まくろうれ

第三武別あさまふぐけものあろ事

元和乃ころめころおさまのくりんおんだうよ
ぐけものあるといひわれーふはは府は春日の
肉ごろやう乃士ありてぐはやそそ乃んこのふと

しろよりはるかにくらく海ぢさるどいくへくれ
どるまゝぬるぬるよりくらくれ日のくれよる
よりかくれて下人よりあるく和尚一人
しうひよまれといひうくめそのあハ堂より入て
雑魚ぬるるよ表のくらくとれりよ雑魚まゝり
のもとうちんでうかぶつきて二人寄り
とゞめていやう堂内へ俗人のいるまゝ
制ありといでゆへとゝいさくひやくくはハ
救世より宿事ありてちりのありゆゝ
たまへといでひともとゝひくくとこへて出ぎ
きをちくくをくるね弾よいでさくとんんがさ
くらてう物ぬさてハとものるのりのくてハるくは
くうぢけものくとおりひよまくぬまのハ此
僧法五十人下あまりの提灯よ火とりく

いくるゆもも図維の紙ぎて来るくさくうあはは
えくよさくるくて堂内よくくり俗人を法会也
とくいでくとくいろくくよせあれくちをどくこくよ
いくやうのまあくくもも出まくくとおりひはくハ
あまもせびを延引くくくへくれハはもも
そよまくくう物くくやくくあくてくや七般の
対ふとあぶくさ此ナ六七くくり小僧ほ門より内
陣よ入燈灯よ火とくぶくく祇あくまくくそのくく
ちくくくよ坂どあくひハ面をくくなくくみくくり
あくひハ臭あくくりくくく

うきとりてうぶすりびうせーねとりとびり
かどもみそうんとりもとめうちゆつを
ものもるれつまてどのもそふみくめも明
ねておとりめまばしひやまとあいまち
よるばひまたで一人きれりぬりのもれハと
いへバ下人のいそふいまに参りゆべくいる菓ハ
はかりおぼつくく魚ものもはるよのり糸ほと
りつぎてまが馬よのりよ下人のいそく去れ六
つりまもはるくいやとりそのまよかそ
まりそあまばとけものこ家きりり
どもどめ二家ハさもおもりぐ三まあふ小俗ぐ来
りくりぐまへりくよへりまそ鬼ぐりおり
りこまりりへどるれりりやうそのりかハひ
やりよはるべーやりりとりまばれおそりき

小僧がはなしよりもちがふ事なれば、さてはあれもだ
けをれしとこそ、ひろうふるよりとうとうよ。馬も
なんげの相なれば、いつよりこてまつさいはふ
おちうろはざくただうれうとありしとん紀
きーとはようりはとせくて、給米の下人
ひうひよりくろうふ、逐入てありーうばくとうか
どあくいちやくたくかうーとせはの俳諧
いろくーくー始末ーうーざれば、云今うや
おひうんおいーはゆくるうーいでうれ人
人ちうーうまちうー給ちんはまとうーー勇えはあそ
まだといへどおそうべうそれあそれざうはかりーう
いうーそそねの勇と兵の勇と敵若男は
ふとやこれるん兵の勇ーてくりそれよしふ
るんのはーうあんや慕虎ふるちくそとも

ふうの事なるたりのよはくこせーと更るのいもーめ
もひうりこの人れあうや

第四 あさまのだうそ人とーされ事

堂鬘寛永七八乃ーかーよ乃人江戸へ下
てかんせうふせいのあさるひ給ふそのあうら
よ町人のむとめ様ーよやーさありうーまさ
るたものよ為そあそ人ばくるでいふーも
なうーそれむちうべき神をうーちあさうーた
ありーまでと鬘まーーせちよおちーとそれ
影をうーさくたーいーせうればなさけふーうる
らひうはぞれるぐーいるぐのいるまでもなく打
るびうーさるたぐふおやーふうーあぬいりせのうち
ーーたるとざりるーーんうればおやはうーく見を
ちうーぐむちびべさ縁のまるぐ宮むーーこふそ

それぞれむしたあいてとうるーく思ひかくしあるあれ
こふくとさーせどーごろ日ごろ物むつまーさ中
ともさーれぎこうひとさーうこともいんーう俗
よるりやハせんつまでとくうさあみぶやまよ思ぶふ
るれちふーも居れバこそけっきまをとーー蛟
乃潮こよもむ沖のるくよ老りろとりふ出ま
ぎるかるーうんごーしくはまるへまぎれ
いでんとくどさーれたるのこもそーごろねもそ
出ーー物べよるくゆきたくるりひまるれバまふ
けえーう事よるりひさ秘乃さむーろきぬくよ
ぎでーりうそいでーーと秘ハもやまぬうべさ
富もるーぎんあさーさ乃だーよ　こーひと時
て様ぐーんとうのーれ縁よ神ーーそーぐ二人
いわーーもるくうーーふーーさーよつお義の時ーよ

おどろーそーうへとろーふ安ーーるくぎーさーぞく義
なんどひーーーせーりぐいーーれーーやとぐるーこれ
たるあれぐーれーびぐーーーるくあーれーよ眉
新ふ海ぐふ義乃ーーーりてぎんーハ伝とるけく
ぐとーーーぎくーやうーーりれバさてきぬう
るるハあまるーーと様ぐーーーるとれバ十二三ー
ぐーりの大乃様ぬるけなくもーーーるひき
ーーそーーーりあーーむるーーさーーるれバやー
ーーーるふれーーぐへーーる義をあーーー矢て
ーりねぐーぐれそーーく思ひ沼ーハーーーあ
るーんとれハ紀州よありぐれ人事よさんぎりの
ぐーりせりとざる屋ぬのーるーー伝り

第天あるてれ伝て様乃雞よあひー事
新鶏よいよ天鶏とんるりのやーん古今のだとー

これをと病めりとてとても自傷他害の賊てよまづと
ぶ傷場と乃会あらぶくもちぐもたちもなく
て生のてんぐなるべし。如智げいのうつさづ
うたまりとおもうん人ハぐくまのあくとろあく
うんどとうねろ乃あくのたふゆうひてさ
いしもさうれたるよあち結ひ。そういそ
ゆるほうけ乃とく。魅鬼のたぐひかるつぐよ
さる人のうらいあいごるんうてけまるしが
あるたまくいたるしうう合ゐんどうてあそ
ひあるふぐしの沈門あぐかりそめよ産をさて
ううどもうるる乃偽ふうんうさるへりうかと
人やりくれもうふあびぐいご中ハやよとうん
ふうさぐうた聖。学浩ぜうのうう。ふてうあれども
ゆくあさうよたまう。院南門お院国宿たうふ歌

あへつぐたうふうれうるるくあうち乃下絵所来
ちうよ山よゆうしよぐるうさうあ紙乃ん毛バたた
たうたうさうれたまう乃えもいうりぐうれあよひ
ふぐうりうるるぐるにうりうろう人ようりうれど
人くく不審しくうみ下部とあくゆうさあるい乃
ましふ廉のうしひちうけたうそ忘れうどまれつる
ようりうつうさみ物とのがりてうれど海ふぐうも
ちうれうれとたうるうさうりうりうりうたうさ小神ハ
あようりかぐ〇ハ宮くくへひうさうりう下敷む
ましびたたうもうあくうよみぐれ泥屋尼と嘲
蓋ちうやたうりうれバ中くくよあぐ〇てうやむ
ありうさ海ちりううれうん天狗乃ふあるうん何さ
ふ和戒たうさましひて傍磨乃加護ちうりうりうしあ
さうくうもうの

第六　てんぐはぶてうつまの事

あるさうしひろうらしハ。日光山はふもんの事
りよくぶりしふまこ他ぶりよりて。こふひこ
くあそざろ法事。ろれをまりくぶろ藤
ろろこびはぶどもそうろう。財産乃らまこおりを
まぶも。他ぶの人とぶ屋へいく事法会をうえん
だちろうろ日数をろに一日いころうこうり
それ日そぶくろうひべさるどいひこせーぶ
やぶそろうべきと西手ちくそれ日をまちて出
合ろうこゆくもを西まぶどろうり小行筒乃うを
くこはくもおくとくもなくろうーぶろふをや日
乃路も澤山よりち修光もやうく新ろこ宣
まぶぶちうちんよ炊とうげどれとうをおむ
れこうえいろれ日乃をとづれまぶ西まぶまでよどうひ

それだけの事乃外よなりぬくいとなげひとをか
うちふのいばちちりともをかおはきたりろと孫
てうつごからうぜとといどをうぐあひよ他人
ちりれをづくをかたる中の事をれバ下くも
一緒ををくべきをみをそれどむをつべきおもて
ををどくををうぐふ邊むをろくをんとをろふ
ぐをふようちををを結ようつあられ乃をの
をふ掘ぐをくおまをへあををゆをる提灯も打
ぐををて出もはをあをよををぬをふくのてひよ脇
をををく乃奥をどすてくををを乃をとを活とを
よ分ぐををりふ人をふをくあををぐさて物
人とはをりそれバをれとあり乃をるをのまく
みをくをりをりをりおまりふんをりを
いをを乃をへ為ひよはをりそれバをを下へをを

たるかをふ乃をやをゆをべバをれをと思ひよけを
乃れをはくをあるとひこをりをの事へをふ
をふあひとをれを

第七てんぐいをる事

太のをれを乃沙をはをるはをひのいをく系をを
日光山のは普信の事ありてはくををの山を
おはく石紙ををふをを三人ひはを内をれをを
一人をりあを系をれぐをるをくよを屋をいを
四郎紙乃をふ例の山よ出ありてをををとたを
きをををををを八れを乃あ人のをんををを
普信とやはくをふをををくんをねを事をふを
よをのをを乃をを人歩物骨乃をいをとををよを乃
ををくをあををを結をを八ををけをを
をををりひををををを乃をを

わ[illegible]もるくすはくろほどとふる[illegible]怪の事かの
うハちゝぐろなり[illegible]とて[illegible]義に及ぶ
うちゝゝひべきとありひふ[illegible]りかゝりて所を[illegible]
あゝゝ[illegible]まちゝてほえつゝの者とはゝひゝ
て[illegible]俗あ人のゝゝ[illegible]れ事日ぶんゝゝいゝゝしゝへバ
やゞゝく出来ゝべきふいゝでゝ[illegible]ハいそぎ[illegible]
おゝ三更まゝぐ作つゝゝれいゝそゝゝゝゝゝゝ[illegible]
ゝに君不[illegible]ゝれバゝゝゝゝゝ[illegible]
しゝゝゝゝゝゝゝゝ入ゝ[illegible]
ゐべくゝゝゝひゝゝゝゝれバあ人ゝりふゝて知
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

てやまに合掌こうれくよあそれ濃あまつ四とひそむ家
乃ゐ四ゝゝふら一神をぼーしさたまるりでんぐ
ほぐくらいあハるるこで焼亡の難ありちろべな
いりるんどーぼへーるどいさしまバまーてま
ちくさんくハて加持くくへなどーぼへくらふたた
じあを一向ふるり伺とゐふくくさいまられ
まやふりと情乃こりくくくもるー第引虎徳丸会
伝ちりおゐくふよるちよいりなーといひて多
ておどろうぶれどいくむる神をちくくるくやう業
乃ごくくそのきぢめをるくおほくがるく後ろ
竹の毒秋と伝てきひなんそれ門とるどりーく
むーりまおそれてきぐてよ向りせ乃いれ
もあくくいーーようりまりあーおーハゆ
てゐ乃代とゐくくりぶれどんよりくね怪奥

よそれ難るれりのをやるふお自乃まけとれ
ゐくよ花ハされいまーたくくをものが
うどうーくんくくうぐむくをぶふと忍乃よ
まをとのぐろくふくり揚をおりへバほ弱た
まりちくくくきけだけぐゐくるんを生ぶれど
後ぐ乃法まだいそれぬをづひよくくとあんど
まちくのをぐりひとまくあくゐ乃中よ野をかり
出をぐぐーーむさとりのごと揚ようけまーこ事也
ゐーくく小事ハ男のたーるをんのあくゐやくくもくり
るーーゐほろびおくゐるなどハ因果るりあへていふ
づくんを路丈ゐ乃やまひといをくんとくーをのをふ
くくを伝ゐいをくまひくくくりくくまん報氏をくく
むくくーを伝いくくやくくるんくくあくくるくるぐこれ
あんぐハるりと丈ゐ乃仁よをくぐくを伝の為よゐ

業のるせろおざるよまハけをられ〻時世を
たとゝ人ゝそゞふやんゝるきいあんゝるまゝ
とゞ紙をゝてもいのゝゝべゝとゝるあゝとゝるせん人ゝゞ
ゝハ内祝よたゞゞゝゞべゝさ世界のゝゝさゝハ祢もおハ
ゝまゝゝねゝゞゞゝゞゝゞゝゝゝ

え一寒加なるうん

第九 摂州布山を魔ふる事

ほの山布山そびたやうん天乃夏境るう山城乃くくまるうちの山行きのやまとしふと日本の三野ゆ門とうぐりやくるびいて無漏くくび月ちくて無明ちくるへなり紅るの演説あくふ山くく報罪乃罪業たちまつぐくちちみく現世安穏の寶祥といひう歯来毒蛇の恵雄とかくまくうくれる紀魔ふるうそのふりく川久保と云罪ようちちうへふうくはまてふくうひくふゆく報ちちちを事也ひくうハ乃約とりちまくの神ハうし仕接とはくはくひよるれくうたとつまてまぐ報うけくいでーよやうくくあもち報を更ゆけど獅くふくくびおまりのくうおくうくれば多門よあくれく

日ぐ紙ハゆくぐりくれどくくひハ布山くてひふ坂くうふくいんくもちぐーやのがれくもるる紙ちくくくふつまくうたふうひよかくくあまくへまくぐくれちくふくくるくぐんて猫あかくくやうの乃くれ来るにくくとくくて矢くげてくくむよ猫くぐき坂乃毒年よくれくけハ水尺くてくハ罪くよゆぐふ彫とちくへるくちくさ浄業を常くくうあハくくふのけぞつくちくよ乃くくう丈修乃猫とをくれふくぐくくうてあのくふふくくくりのあくぐくる十くぐりよるりて二人乃くれ尺つくくといへどくくものくえいくくだ多ぐちりぐりよまる多ぐくくり返くくくぐ罪十修所乃坂ちくとくよつまげさ修くくかくくりーぐたくひよくよるりていまのくれ尺くくくと吐息ていひくり

そのうちに、こうとやありしとも

第十　和山乃こうの天狗のこと

ほんざんのをくてよ、天狗ありつる事

人をもびとりにこうみいでうちぞ、あるれども

たゆるこの家にも、ありしるこのいうふく、畑菓

をんどもへしよりあつこうもりもくるとも

おびこうしぞ、ちこ二町とやあるんぷ

ときも二腕ぞうの天狗ぞたちよりかと

をうの天とんでさうふうそへうこ・ちうり畑燈とうて

あるこ白畳乃ごうしぞうそこ和山のこうこの高

たり、笑こうふちうまこ六町とやあるんぷあうて

やまびこ十町ぞうつぞこうぞうやもこ宸の

ごうしぞうぞうつぞうこ二三人のあうこうて

ちうとつうまぞうへうてうあせうぞ、ぞうこ

つくめさまの一さあらさまおそろしきをんとい
もうあ一ぬいちやくあとろ乃戦のごくでんぐ
どちらあるそひこやたりんまこもろくれど
ふるさ方のあぐうろ一めろ乗こ一もかこく
もちめ一ぬふたりん天乃ほぎりやと見来よあろ
あめこれをうとやめろろあり

第十一刃こ一ふうだうと刃ろ事

あろさふろひろろ一ぬ乗ぎろ一ぬ乃ろろ
一とれだとほまて物よいで一ぐその和仕合恵
一一里だろりの乃ろそろやうろべことあひ
山乃ろ一よやろろひ一よ蛇ろちづく拍さひて
蒙ふく風をらうぐ一く天涙ほ一ひまくに横
つろく昇星うつもべこ寝ろ一ぬち紫乃ろ
てはぐ一ぐふもまこ乗ほうぐせり山あひぐ一ま

ろ〇つぐろろにぐこひこそあちぐぬ一ぬへの宿
ろふとろふちころものたちあぐろそのろちあ伝
彿ろてんまけぐこれどぬんくまよあぐろ
ろぐこけこものとはちりぬくてもりあろふひろふ
乃山のいてはろそのせいろはこ一星れ光ろ
ようろて乃ほバちころ物ほろりぬそはたす
ろどのぐろぬみこ一ふうだろといふりのようそお
そろくはいろあんものをとぬとりろをこ一とひ
こして物の目ろろせろかりまこ乃矣をろりぬれ
坊ほ乃つろと目をろるこぐまろこあろふひこれ
あくありろくはよはれあぐろまゆひ一鬱乃襟
よはくまでせりぬりろや時ろもこ一矣いんとろ
ひこさろりねろへどよあまりたこふて矣はぐ
こぐあぐくあ一ろまふふ乃ふとこそ矣よ

それをうちもらしこのとりをうちとらんとて墨の新もなく
ぶちふちふちとくおぼえ逢とうまの言もあらしこどもあつまりよみちかんこんめさんとも
ぐすぽ拾ろくんとありひろうもゆくべきこと
とをうんぢちおしく思へどもとべきやうもなつれ
しおよ味うけてよびいぬの瀬綜よぞちまうさを結
ものかうまよ見とつきてゆくやうくやうを
ゆ爾もうんぢおよはをそうふぢうのあみを
うぢをうんとをくふくうさもやうそりの墨
服和とうりんつくふはうぎあうりそみくちハ
おつぎるひでひうハいでをいつり

第十二 引法乃法とあげ〻事

ひゆをとくむへあうぢうあうちゆくを
乃ぐうぎるれぢめうゆをよ考と十篇えそ

いでけうぶもくさろうて小竹原よりいくぶ第と一本四
矢乃くしけよくらべねとそぞ箭とうまて十節の
箭よりそへてもちろうさて指くよみちの長
中よりそのいろいろ指さりのあり人くりハちいさふ
ちてさくふうどうぶの事といへどいくへどいくさま
よくろくひ〜なるべしとあるひ考とくるちて
いろふぶもどくへくあくくとんくも花のくくと
うなどいろいどごくくろれどもやくくくくくくさ
もせぶまくいくもくじめ乃どくくく一節くくといろ
かどよ十節くかいくくあど一本のくれりどれと紀
うれくものうどくくくうへようづくくく物とくくくのけ
て赤くくくとのくくく一とくちくくいくくめくくりどくく
附ちくくくれれどだめくくてうへようづくくくハちくへ
ありそくくくくくよあくくどやくその十乃物くり

くくやまくく十ハうぶの部ふちくくりのどくふ見と
用四ぶあくくくくくそれをくくてうくぶくて
人くんどの智よハうんどうべくくくとやくくりそへて十二
くくてゆくくハうくく行ぶ秘まりハまうまきのどと
くくれうぶ乃法ちりといくり超てくんよねくくで
て藏あくくハうぶくくのんどけも答男ちりくくく
どくまりよくぶくくんぶ新とつをんハくくくくバりの
どくくくくくくのべくくりのくくやこ書乃あどれ形よ
ちとくくよくくくくくくくくくくて世中の賣ちあれ金賣僧
部乃ふ形ちもの風とくくふくくくくくよハひとうやく睦
乃用よくくくりとあれどとくて四的くくくくくくと
くくハくくよあねくくくくくくくくくく